

仙台市立柞江小学校で特別講演を行いました（2013/12/6）

テーマ：小学校における防災教育・活動のあり方

場所：仙台市立柞江小学校 視聴覚室

12月6日（金）に仙台市立柞江小学校 視聴覚室において、当研究所の村尾 修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が「小学校における防災教育・活動のあり方」と題して、特別講演を行いました。これは柞江小学校の教諭 15 名を対象として、小学校における防災教育研修の一環として行われました。

講演は、まず、過去に行われた茨城県取手市立取手小学校での防災訓練の様子について取り上げ、地元住民や消防署員との連携、協力体制がなされている事例を述べました。続いて、学校が地域の拠点となった背景や Disaster life cycle について説明しました。その後、1995 年の阪神・淡路大震災の動画を使い、リスクマネジメントについて解説し、柞江小学校の場合は建物の構造を理解した上で、耐震化の必要性があると訴えました。また、災害時における地元地域との連携や住民との相互の協力の重要性について述べました。

講演の途中には、先生方に対し、「強い揺れを感じたら、どんなことが起こると思いますか？」という簡単な質問を行い、災害時における対応は設定条件（地震が起こる場所・時間・立場など）によっても違うため、イメージーションを持つことが大事だということを実感していただきました。

2011 年の東日本大震災後、教育の現場でも地震をはじめとした防災に関する意識が高まり、講義後には熱意ある先生方との活発な質疑応答、議論が行われました。「子供たちにどのような形で防災教育をするのが良いか？」という質問に対して、村尾教授より、「小学生にとっては、防災訓練という目的以外にも楽しくゲーム感覚で防災の知識が身に付くような教育方法が良いのではないか。」との提案がなされました。

最後に柞江小学校校長の大田口先生より、「大変有意義な講演だった。子供たちの将来を見据え、彼らがどのような種類の災害にも対応できるような防災教育が必要だと感じた。そのために、災害時におけるイメージーション能力を付けさせたい。」という感想と感謝の言葉が述べられました。

村尾教授は、「災害科学国際研究所の一員として、これからもこのような機会を積極的に設けていきたい。」と伝えました。



村尾教授



講演会場

文責：村尾 修（地域・都市再生研究部門）